

Display Content Manager

Startup Guide

Display Content Manager
Startup Guide
August 1,2008
Copyright © 2008 Canopus Co., Ltd.
All rights reserved.

■ご購入製品を使用される際の注意事項

ここでは、ご購入製品を使用されるときにご注意いただきたい事柄について説明しています。



ご注意

- (1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたら、当社までご連絡ください。
- (4) 運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
- (6) 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。
- (7) カノープス、CANOPUS/カノープスおよびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
- (8) Microsoft、Windowsは米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。



表記について

- 本書は、2008年7月現在の製品構成で記述されています。
- 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイルも必ずお読みください。
- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書れています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。
- 本書ではMicrosoft® Windows® XP Professional operating systemをWindows XPと表記します。Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise、Microsoft® Windows Server™ 2003 Datacenter EditionをWindows Server 2003と表記します。Microsoft® Windows Vista™ Buisiness、Microsoft® Windows Vista™ Ultimate、Microsoft® Windows Vista™ EnterpriseをWindows Vistaと表記します。
- 説明の便宜上、実際の製品とイラストおよび画面写真が異なる場合があります。



警告

- 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニターに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでになされたことがない方でも、それが起こる体質を持っていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

目次

| | |
|---|-----------|
| Chapter 1 確認 | 1 |
| 1.はじめに | 2 |
| 1-1.使用許諾契約書について | 2 |
| 1-2.ご使用に当たっての留意事項 | 2 |
| 1-3.パッケージ内容の確認 | 3 |
| 1-4.当社ホームページについて | 4 |
| 2.Display Content Managerの概要 | 5 |
| 2-1.Display Content Managerとは | 5 |
| 2-2.Display Content Managerでできること | 5 |
| 3.推奨動作環境と機能について | 7 |
| 3-1.DSサーバー機器 | 7 |
| 3-2.管理用機器 | 8 |
| 3-3.再生クライアント機器 | 8 |
| Chapter 2 セットアップ | 9 |
| 1.Display Content Managerのセットアップ | 10 |
| 1-1.セットアップ手順 (MEDIAEDGE-SVS3を使用しない構成) | 10 |
| 1-2.セットアップ手順 (MEDIAEDGE-SVS3を使用する構成) | 18 |
| Chapter 3 リファレンス | 29 |
| 1.DCMコンソール | 30 |
| 1-1.ナビゲーションバー | 30 |
| 1-2.素材画面 | 31 |
| 1-3.レイアウト画面 | 35 |
| 1-4.プレイリスト画面 | 38 |

| | |
|--------------------|----|
| 1-5.スケジュール画面 | 42 |
| 1-6.ターゲット画面 | 46 |
| 2.ステータスマニタ | 49 |
| 2-1.メイン画面 | 49 |

Chapter 4 チュートリアル..... 55

| | |
|-----------------------|----|
| 1.操作の流れ | 56 |
| 2.DCMコンソールの操作 | 57 |
| 2-1.DCMコンソールの起動 | 57 |
| 2-2.素材画面の操作 | 58 |
| 2-3.レイアウト画面の操作 | 63 |
| 2-4.プレイリスト画面の操作 | 66 |
| 2-5.スケジュール画面の操作 | 68 |
| 2-6.ターゲット画面の操作 | 70 |
| 3.ステータスマニタの操作 | 76 |
| 3-1.ステータスマニタの起動 | 76 |
| 3-2.転送状態の確認 | 77 |
| 3-3.再生状態の確認 | 78 |

Chapter 5 仕様..... 79

| | |
|--------------|----|
| 1.制限事項 | 80 |
|--------------|----|

Chapter 1

確認

この章では、セットアップを行う前に確認していただきたい事項や、ご注意いただきたい事項について説明します。

- はじめに
- Display Content Manager の概要
- 推奨動作環境と機能について

1 はじめに

1-1 使用許諾契約書について

Display Content Manager をご購入いただき、ありがとうございます。本製品をお使いいただくにあたって、まずはじめに付属の使用許諾契約書をお読みください。本製品をご利用いただくには、この使用許諾契約書の内容にご同意いただく必要があります。この使用許諾契約にご同意いただけない場合や、ご不明な点がありましたら、本書以外のパッケージを開封せずに下記第1サポート部までご連絡ください。この使用許諾契約は、お客様が『ディスクが入っている封筒』を開封された時点で内容にご同意いただいたものとさせていただきます。

カノーブス株式会社 第1サポート部
〒651-2241 神戸市西区室谷 1-2-2 カノーブス株式会社

1-2 ご使用に当たっての留意事項

ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む間接損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。製品本来の使用目的および当社が推奨する使用環境下以外での本製品の動作保証は、一切いたしかねます。また、CPUなどを規格外でご使用の場合、本製品の動作保証は一切いたしかねます。

本製品を使用して他人の著作物（例：CD・DVD・ビデオプログラム等に収録されている、あるいはラジオ・テレビ放送またはインターネット送信によって取得する音声・映像）を録音・録画する場合の注意点は下記のとおりとなります。

- 著作物は、個人的にまたは家庭内その他これに準ずる限られた範囲内において使用することを目的とするときで、その使用するものが複製または編集をする場合等を除き、その複製または編集等が著作権を侵害することがあります。収録媒体等に示されている権利者または権利者団体等を介する等の方法により、著作権者から許諾を受けて、複製または編集等を行う必要があります。
- 他人の著作物を許諾無く複製または編集等をして、これを媒体に固定して有償・無償を問わず譲渡すること、またはインターネット等を介して有償・無償を問わず送信すること（自己のホームページの一部に組み込む場合も同じ）は、著作権を侵害することになります。
- 本製品を使用して作成・複製・編集される著作物またはその複製物につきましては、当社は一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

1-3 パッケージ内容の確認

Display Content Manager のパッケージの中に下記の付属品が入っていることを確認してください。製品の梱包には万全を期しておりますが、万一不足しているものがありましたら、下記カスタマーサポートまでご連絡ください。

カノープス株式会社 カスタマーサポート

電話: 078-992-5846 (※月曜～金曜 10:00～12:00/13:00～17:00 土、日、祝日および当社指定休日を除く)

■ Display Content Manager 同梱物

□ ディスク

Display Content Manager をお使いいただくためのアプリケーションなどが付属しています。これらは、封筒の中に収められています。この封筒を開封する前に、付属している使用許諾契約の項目をお読みください。

□ マニュアル

・Display Content Manager Startup Guide(本書)

□ ユーザー登録カード・ユーザー登録控え

本製品に関するさまざまなサービスをお受けいただくために、ぜひユーザー登録を行ってください。ご登録いただけていない場合には、一部のサービスについてお受けいただけないものがございます。

ユーザー登録カードの各項目に必要な事項を記入し、ユーザー控えの部分を切り離して切手を貼らずにポストへ投函してください。切り離したユーザー控えは、ご購入いただきました製品の所有者であることを証明するものになりますので、本書と併せて大切に保管してください。また、本製品は当社ホームページにおいてオンラインユーザー登録も承っております。詳しくはオンラインユーザー登録ページ(<http://www.canopus.co.jp/tech/regist.htm>)をご覧ください。

□ 使用許諾契約書

1-4 当社ホームページについて

Display Content Manager をはじめとする当社最新情報をホームページ(<http://www.canopus.co.jp>)にて発信しています。最新のドライバ、ユーティリティ、製品マニュアル(PDF形式)、FAQなどを公開していますので、当社ホームページへ是非アクセスしてください。

2 Display Content Manager の概要

2-1 Display Content Manager とは

Display Content Manager は当社製『MEDIAEDGE3 DS』(MEDIAEDGE-SVS3、MEDIAEDGE-STB3 DS、MEDIAEDGE-SWT3 DS)および『HDMA-4000/HDMA-4000Sync』をデジタルサイネージに対応したものに機能拡張するための専用ソフトウェアで、「DCMコンソール」、「ステータスマニタ」のGUIアプリケーションと「DCMサービス」、「リダイレクトサービス」のサービスプログラムで構成されています。当Display Content Manager を組み合わせることで従来、単に映像を流していただけのモニタを積極的および統合的な情報発信ツールへとアップグレードすることが可能となります。

2-2 Display Content Manager ができること

Display Content Managerは1台のモニタ内に複数のリージョン(領域)を作成し、その領域内にそれぞれの「映像」、「静止画」、「文字情報」などの伝えたい情報を同時に表示することができます。

● 複数のレイアウト表示

モニタ内に複数のリージョン(領域)を設定し、その領域内に別々のコンテンツを表示できます。領域の配置レイアウトはマウスによる直感的な操作で簡単に行うことができます。

● 複数のコンテンツを同時に表示

モニタ内に設定した領域内に表示できるコンテンツは販促・情報伝達で一般的に必要なとされる以下のタイプに対応しています。

- ・ ビデオ : MPEG2-TS、MPEG2-PS
- ・ 静止画 : JPEG、BMP、GIF(透過対応)、PNG(透過対応)
- ・ 文字情報 : txt、RSS (URI 素材として登録)
- ・ FLASH : SWF
- ・ オーディオ : WAVE(PCM:8/16/24ビット、1/2/5.1ch)、MP3
- ・ URI 素材 : 任意URI
- ・ 制御コマンド : ASCII、HEX で指定可能(送信のみ)

● テロップ表示

モニタ内の上下左右にテキストをスクロール表示できます。WebよりRSSフィード情報を取得し、ニュースや天気予報を表示したりすることができます。

▶ Chapter 1

● 緊急自動再生機能

火災、地震などの緊急事態発生時、特定のコマンドを受信することであらかじめ設定した緊急メッセージを流すことができます。

※ 特定コマンドの発信には別アプリケーションが必要となります。

● 再生パターンを任意に編集可能

素材登録から再生時間設定までコンテンツの再生パターンを自由に編集することができます。

● 複数の放送内容を同時に設定可能

複数箇所のモニタに対し、別々の放送内容(チャンネル)とスケジュールを設定することができます。また、複数の放送内容は1つの制御画面内で並列的に表示され、編集する事が容易に行えます。

● 自動更新が可能

指定した時間に放送内容とスケジュール設定を定期的に更新するように設定できます。また、マニュアル操作でスケジュールを随時更新することも可能です。

● 差分アップデート機能

コンテンツ更新時、必要最低限のデータを送信するため、データ量や送受信時間を抑えることができます。

3 推奨動作環境と機能について

3-1 DS サーバー機器

■ FTP サーバー

素材ファイル、システムファイル(プレイリストに対応する SMIL ファイル、スケジュールファイルなど)を配置します。

-FTP サービス

- ・ IIS6.0 推奨 (Windows Server 2003 標準)
- ・ 配置場所となる仮想ディレクトリへの Read/Write 権限が必要

■ DB サーバー

Display Content Manager で使用する情報を登録するデータベースを作成します。

-DBMS

※ Display Content Manager はあらかじめ決められた名前のデータベースを作成します。

- ・ SQL Server 2005 Express Edition 以上
- ※ SQL Server 構成マネージャにて TCP/IP を有効にする (リモートアクセスの為)

-DCM サービス (転送)

システムファイルの作成、およびシステムファイルの転送を行うサービスです。

■ MEDIAEDGE サーバー

-DCM サービス (ダウンロード)

ダウンロード情報 (Download.txt) にしたがって FTP からのダウンロードや MEDIAEDGE データベースへの登録などを行うサービスプログラムです。

-リダイレクトサービス

スケジュールファイル (Schedule.xml) にしたがってクライアントに対してリダイレクトを行うサービスプログラムです。

-MEDIAEDGE-SVS3

※ 本製品には MEDIAEDGE-SVS3 は含まれていません。

MEDIAEDGE3 システムの中核で、ビデオの録画、中継および配信を行うサービスです。

※ 対応動作環境は『MEDIAEDGE-SVS3 User's Guide』を参照。

📖 ポイント

1 台のサーバーに「FTP サーバー」、「DB サーバー」、「MEDIAEDGE サーバー」のすべてをインストールすることも、個別のサーバーにインストールすることも可能です。

3-2 管理用機器

■ DCM 管理 PC

□対応 OS

Microsoft Windows XP サービスパック3以降

Microsoft Windows Vista サービスパック1以降

□解像度

縦レイアウト作成時は垂直方向に960ピクセル以上の解像度が必要です。
(SXGA(1280×1024)以上を推奨)

プレイリストのプレビューを正確に行う場合、WUXGA(1920×1200)の解像度が必要です。

-DCM コンソール

素材の登録からスケジュール作成、ターゲットへのスケジュール更新設定までを一括して行う GUI アプリケーションです。

-ステータスマニタ

DCM コンソールで登録したスケジュールの転送状態やクライアント端末の再生状態を表示したり、クライアント端末の設定情報の取得設定などを行う GUI アプリケーションです。

3-3 再生クライアント機器

■ HDMA-4000/HDMA-4000Sync

ネットワーク転送により内部のHDDに蓄積したHD/SD映像などを再生するプレイヤーです。MEDIAEDGE サーバーからのストリーム配信の再生にも対応しています。

■ MEDIAEDGE-STB3 DS

MEDIAEDGEサーバーからストリーム配信されるHD/SD映像を再生するセットトップボックスです。

■ MEDIAEDGE-SWT3 DS

PCをMEDIAEDGEシリーズの再生端末として利用するためのソフトウェアです。

Chapter 2

セットアップ

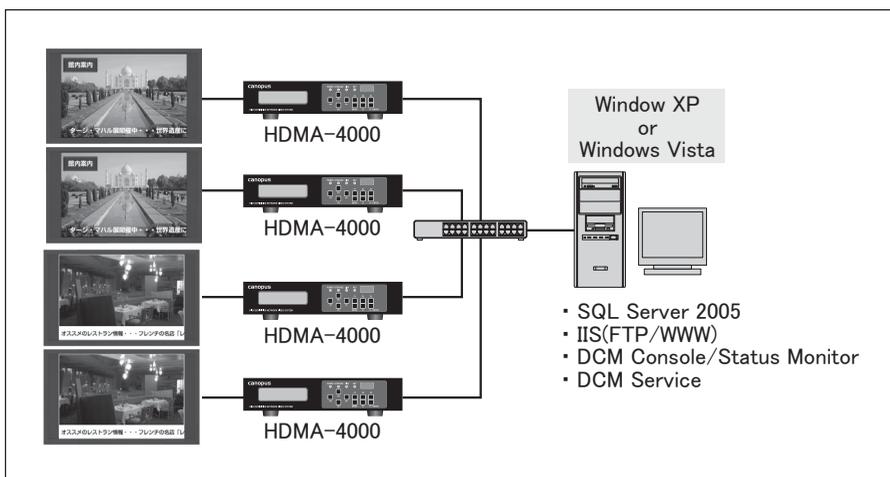
この章では、セットアップについて説明します。

- Display Content Manager のセットアップ

1 Display Content Manager のセットアップ

1-1 セットアップ手順 (MEDIAEDGE-SVS3 を使用しない構成)

MEDIAEDGE-SVS3を使用しない場合、最低1台のコンピュータからシステムを構築できます。Display Content Manager アプリケーション (DCM コンソール、ステータスマonitor) と他の Display Content Manager のコンポーネントを1台のPCにセットアップします。再生クライアント機器には HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-SWT3 DS が利用できます。



1-1-1 OSのインストール

コンピュータにOSをインストールします。

Windows XP SP3 もしくは Windows Vista SP1 をインストールします。

1-1-2 IIS コンポーネントのインストール

IIS コンポーネントのインストールを行います。ここでは Windows Vista に IIS コンポーネント (FTP/WWW) をインストールする手順を例に説明します。

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]へと進み、[プログラムと機能]をクリックして[プログラムと機能]を起動します。

※ [プログラムと機能]をクリックした時にユーザアカウントの制御ダイアログボックスが表示された場合は、[続行]を選択します。

2 [Windows の機能の有効化または無効化]をクリックします。

→ [Windows の機能]ダイアログボックスが起動します。

3 [Internet Information Services] にチェックを付けます。また [Internet Information Services] ツリーの以下の下記コンポーネントすべてにチェックを付けます。

- ・[FTP 発行サービス]以下すべてのコンポーネント
- ・[Web 管理ツール]-[IIS6 と互換性のある管理]以下すべてのコンポーネント
- ・[World Wide Web]-[アプリケーション開発機能]-[ASP]コンポーネント
- ・[World Wide Web]-[セキュリティ]-[Windows 認証]コンポーネント

4 [OK]をクリックします。

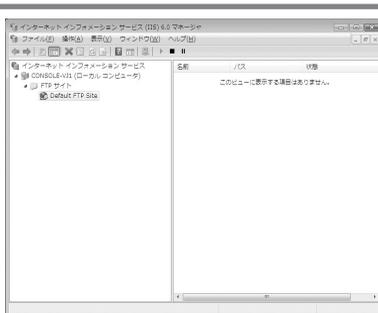
→ インストールを開始します。

1-1-3 FTP サーバーの設定

FTP サーバーの設定を行います。

【スタート】メニューから【コントロールパネル】→【管理ツール】へ進み【IIS6 Manager】をクリックします。

→ 【インターネット インフォメーション サービス(IIS) 6.0 マネージャ】が起動します。



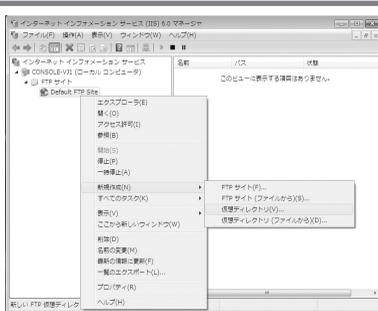
注意

あらかじめFTPサーバーのスタートアップの種類を自動に変更する必要があります。【スタート】メニューから【コントロールパネル】→【管理ツール】へ進み、【サービス】をクリックします。【サービス】ダイアログボックスの起動後、サービスの一覧から【FTP Publishing Service】をクリックします。【プロパティ】ダイアログボックスの起動後、【スタートアップの種類】を【手動】から【自動】に変更します。【サービスの状態】が【停止】の場合は【開始】ボタンをクリックし、サービスを開始してください。

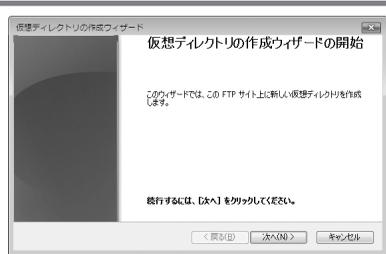
2

【Default FTP Site】を右クリックし、【新規作成】→【仮想ディレクトリ】を選択します。

→ 【仮想ディレクトリの作成ウィザード】が起動します。



3 [次へ]をクリックします。



4 エイリアス名を入力し、[次へ]をクリックします。

※ ここでは [DCM] と入力しています。

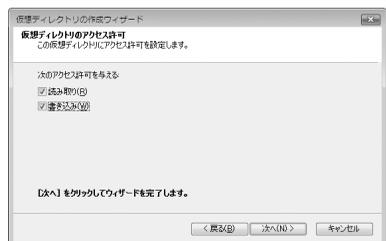


5 [パス]にFTP サイトのコンテンツディレクトリを選択し、[次へ]をクリックします。

※ 容量の多い素材をアップロードする場合はあらかじめ、空き容量の多いディスク内のディレクトリを選択してください。



6 [読み取り]と[書き込み]にチェックを付け、[次へ]をクリックします。

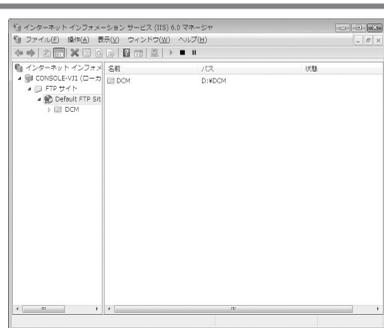


7 [完了]をクリックします。



8 [インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャ]を閉じます。

→ 以上でFTP サーバーの設定は完了です。



注意

IIS ではデフォルトで匿名認証によるアクセスを行います。FTP サーバーを外部に公開する場合には、適切なセキュリティ設定を行ってください。

1-1-4 Display Content Manager のインストール

Display Content Manager のインストールを行います。

1 『Display Content Manager Installation Disc』をDVD-ROMドライブにセットします。

2 DVD-ROMを挿入したドライブを選択して開き、[Setup. exe]をダブルクリックします。

3 [次へ]をクリックします。



4 [次へ]をクリックします。

- ※ インストール先を変更する場合は[変更]をクリックして、インストール先を変更してください。



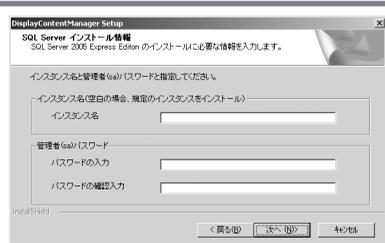
5 [MEDIAEDGE DS拡張機能]のチェックを外し、[次へ]をクリックします。



6 [ここでSQL Server 2005 Express Editionを新規にインストールして使用する。]にチェックを付け[次へ]をクリックします。

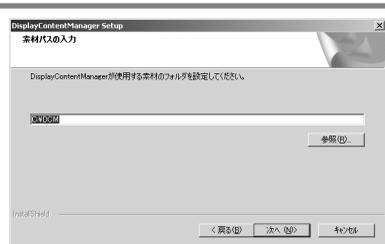


7 [次へ]をクリックします。
→ SQL Server 2005 Express Editionのインストールを開始します。



8 Display Content Manager で使用する素材フォルダを設定し、[次へ]をクリックします。

※ DCMコンソールで登録する素材ファイルを格納するフォルダを指定します。



9

[IPアドレス]にFTPサーバーのIPアドレスを、[アップロードディレクトリ]にFTPの設定で作成したエイリアス名を入力し、[接続テスト]をクリックします。接続確認後、[次へ]をクリックします。



10

サービスのログフォルダを設定し、[次へ]をクリックします。

※ ここで指定するフォルダにログファイルを格納します。



11

[インストール]をクリックします。

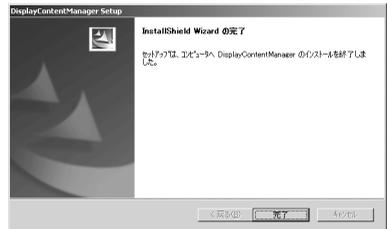
→ インストールを開始します。



12

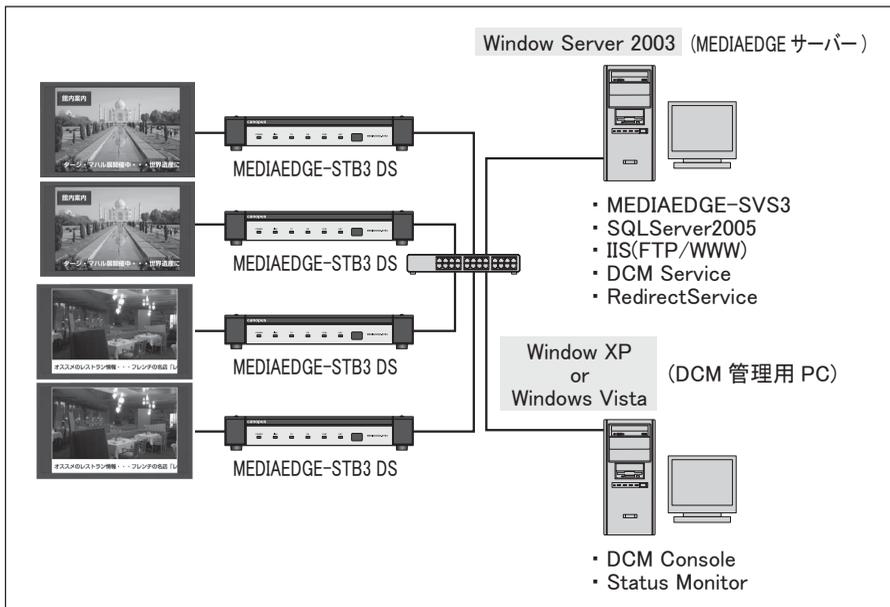
[完了]をクリックします。

→ 以上でインストールは完了です。



1-2 セットアップ手順 (MEDIAEDGE-SVS3 を使用する構成)

MEDIAEDGE-SVS3を使用する場合、最低2台のコンピュータからシステムを構築できます。Display Content Manager アプリケーション (DCM コンソール、ステータスマニタ)を1台のPCに、他のDisplay Content Manager のコンポーネントを1台のサーバーにセットアップします。再生クライアント機器には HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS/MEDIAEDGE-SWT3 DSが利用できます。



1-2-1 OSのインストール

コンピュータにOSをインストールします。

1

DCM管理用PCのコンピュータにWindows XP SP3 以降 または Windows Vista SP1 以降をインストールします。

2

MEDIAEDGEサーバー用のコンピュータに Windows Server 2003 R2 SP2 以降をインストールします。

1-2-2 MEDIAEDGE-SVS3のセットアップ

MEDIAEDGE-SVS3のインストールとセットアップを行います。

- 1 『MEDIAEDGE-SVS3 User's Guide』 p. 14～31を参照してIPアドレスの設定とDBMSのインストールを行います。
- 2 『MEDIAEDGE-SVS3 User's Guide』 p. 31～49を参照してSVS3のインストール、クライアントとの接続確認を行います。

注意

MEDIAEDGE-SVS3のインストール時、『MEDIAEDGE-SVS3 User's Guide』 p. 33 手順④以降に以下の画面が表示されます。以下の画面は既にSQL Server 2005 Standard Editionがインストールされていることをあらわしています。既にインストールされているSQL Serverのインスタンスを使用する場合は[インストール済みのインスタンスを使用する。使用するインスタンスを選択してください。]にチェックを付け、[次へ]をクリックします。SQL Server 2005 Express Editionを新規インストールする場合は[ここでSQL Server 2005 Express Editionを新規にインストールして使用する。]にチェックを付け、[次へ]をクリックしてください。SQL Server 2005 Express Editionのインストールを開始します。



注意

DCM コンソールはデータベースに対してWindows 統合認証でアクセスします。DB サーバーにDCM コンソールを起動するアカウントを作成する必要があります。

1-2-3 IIS コンポーネントのインストール

IIS コンポーネントのインストールを行います。

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]へ進み、[プログラムの追加と削除]をクリックし、[プログラムの追加と削除]を起動します。

2 [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックし、[Windows コンポーネント]ウィザードを起動します。

3 [アプリケーションサーバー]を選択し、[詳細]をクリックして[アプリケーションサーバー]ダイアログボックスを起動します。

4 [インターネット インフォメーション サービス(IIS)]を選択し、[詳細]をクリックして[インターネット インフォメーション サービス(IIS)]ダイアログを起動します。

5 [FTP(File Transfer Protocol)サービス]にチェックを付け[OK]をクリックします。

※ [FTP(File Transfer Protocol)サービス]にチェックを付けると、[インターネット インフォメーション サービス マネージャ]および[共通コンポーネント]にも同時にチェックが付きます。

6 [OK]をクリックします。

7 [Windows コンポーネント]ウィザードで[次へ]をクリックします。

→ インストールを開始します。

※ OSのディスクが必要となる場合があります。

8 [完了]をクリックし、[プログラムの追加と削除]を閉じます。

1-2-4 FTP サーバーの設定

FTPサーバーの設定を行います。

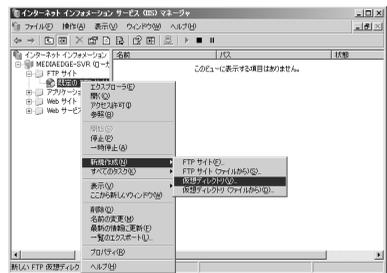
1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]→[管理ツール]へ進み、[インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ]をクリックします。

→ [インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ]が起動します。

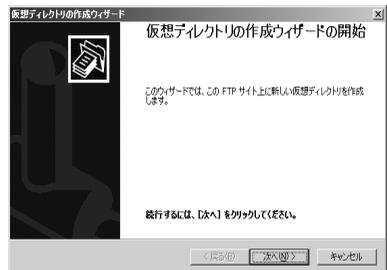


2 [既定のFTPサイト]を右クリックし、[新規作成]→[仮想ディレクトリ]を選択します。

→ [仮想ディレクトリの作成ウィザード]が起動します。



3 [次へ]をクリックします。



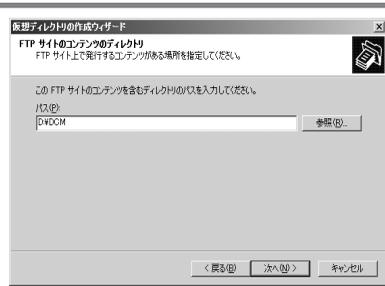
4 エイリアス名を入力し、[次へ]をクリックします。

※ ここでは[DCM]と入力しています。



5 [パス]にFTP サイトのコンテンツディレクトリを選択し、[次へ]をクリックします。

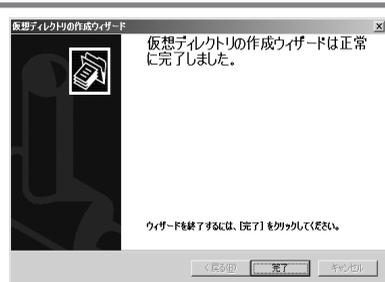
※ 容量の多い素材をアップロードする場合はあらかじめ、空き容量の多いディスク内のディレクトリを選択してください。



6 [読み取り]および[書き込み]にチェックを付け、[次へ]をクリックします。

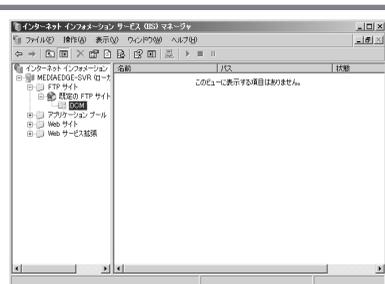


7 [完了]をクリックします。



8 [インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャ]を閉じます。

→ 以上でFTP サーバーの設定は完了です。



1-2-5 Display Content Manager のインストール(サーバー)

MEDIAEDGEサーバーへDisplay Content Manager コンポーネントのインストールを行います。

1 『Display Content Manager Installation Disc』をDVD-ROMドライブにセットします。

2 DVD-ROMを挿入したドライブを選択して開き、[Setup. exe]をダブルクリックします。

3 [次へ]をクリックします。



4 [次へ]をクリックします。

- ※ インストール先を変更する場合は[変更]をクリックして、インストール先を変更してください。



5 [DCM アプリケーション]のチェックを外し、[次へ]をクリックします。



6 [インストール済みのインスタンスを使用する。]を選択し、[次へ]をクリックします。

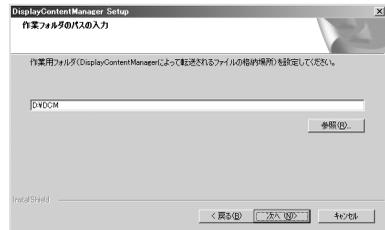


7 [IPアドレス]にFTPサーバーのIPアドレスを、[アップロードディレクトリ]にFTPの設定で作成したエイリアス名を入力し、[接続テスト]をクリックします。接続確認後、[次へ]をクリックします。



8 MEDIAEDGE サーバーで使用するコンテンツフォルダを選択し、[次へ]をクリックします。

- ※ MEDIAEDGE が配信する素材ファイルを格納するフォルダを指定します。
- ※ FTPの仮想ディレクトリに設定したフォルダと同じフォルダを指定することで、ディスク容量を節約することができます。



9 サービスのログフォルダを設定し、[次へ]をクリックします。

- ※ ここで指定するフォルダにログファイルを格納します。



10

[インストール]をクリックします。
→ インストールを開始します。



11

[完了]をクリックします。
→ 以上でインストールは完了です。



1-2-6 Display Content Manager のインストール(DCM 管理用 PC)

管理用 PC へ Display Content Manager のインストールを行います。

1 『Display Content Manager Installation Disc』を DVD-ROM ドライブにセットします。

2 DVD-ROM を挿入したドライブを選択して開き、[Setup. exe] をダブルクリックします。

3 [次へ] をクリックします。



4 [次へ] をクリックします。

- ※ インストール先を変更する場合は [変更] をクリックして、インストール先を変更してください。



5 [DCM アプリケーション] のみチェックを付け、[次へ] をクリックします。



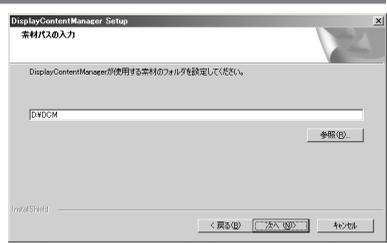
6 データベースサーバー名を入力し、**[次へ]**をクリックします。

※ ここでは先に設定したMED | AEDGEサーバーの名前 [MED | AEDGE-SVR]を入力しています。



7 Display Content Manager で使用する素材フォルダを設定し、**[次へ]**をクリックします。

※ DCMコンソールで登録する素材ファイルを格納するフォルダを指定します。



8 **[インストール]**をクリックします。

→ インストールを開始します。



9 **[完了]**をクリックします。

→ 以上でインストールは完了です。



Chapter 3

リファレンス

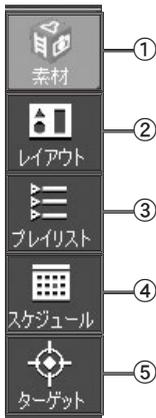
この章では、Display Content Manager(DCM コンソール、ステータスマニタ)の画面や機能について説明します。

- DCM コンソール
- ステータスマニタ

1 DCM コンソール

1-1 ナビゲーションバー

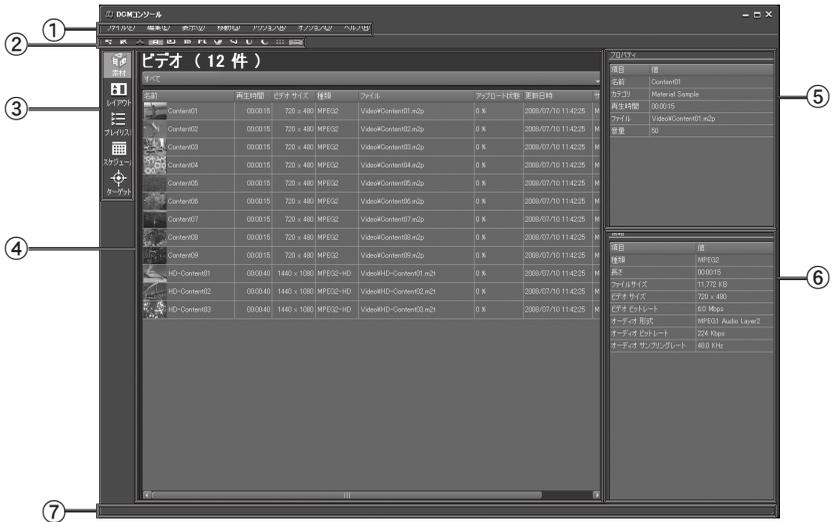
DCMコンソールには画面左側にナビゲーションバーが配置されており、各ボタンを選択することで利用する機能を切り替えます。選択している機能に合わせてメニューバーに表示される項目が変化します。



- ① **[素材]ボタン**
素材画面に移動します(次頁参照)。素材の登録、FTPサーバーへの転送などを行います。
- ② **[レイアウト]ボタン**
レイアウト画面に移動します(p. 35参照)。レイアウトの作成、編集などを行います。
- ③ **[プレイリスト]ボタン**
プレイリスト画面に移動します(p. 38参照)。プレイリストの作成、編集などを行います。
- ④ **[スケジュール]ボタン**
スケジュール画面に移動します(p. 42参照)。チャンネルの作成、スケジュールの登録などを行います。
- ⑤ **[ターゲット]ボタン**
ターゲット画面に移動します(p. 46参照)。サーバー、クライアントの登録やグループ設定、スケジュールの更新設定などを行います。

1-2 素材画面

素材画面では、素材の登録、登録した素材の表示設定（プロパティの設定）、素材のFTPサーバーへの転送などを行います。



- ① メニューバー
素材登録についてのメニューを表示します。
- ② ツールバー
素材画面で主に使用する機能のショートカットアイコンを表示します。
- ③ ナビゲーションバー
画面を移動するためのショートカットアイコンを表示します。
- ④ メインエリア
素材の一覧を表示します。素材の一覧は素材タイプごとに表示され、カテゴリによって表示内容を絞り込むことができます。
- ⑤ プロパティエリア
選択している素材の表示設定を表示します。この項目を編集することで素材の表示設定を変更できます。
- ⑥ 情報エリア
選択している素材のファイル固有の情報を表示します。編集は行えません。
- ⑦ ステータスバー
操作に関する説明などを表示します。

1-2-1 メニューバー

素材画面のメニューバーでは以下の各種操作が行えます。

[ファイル]メニュー

- ・ **新規登録**
メインエリアで表示している素材タイプのファイルを素材として登録します。
- ・ **カテゴリ**
[カテゴリー一覧]ダイアログボックスが起動します。カテゴリの新規作成、編集、削除を行います。
- ・ **FTP**
アップロード：素材として登録した素材フォルダにあるファイルをFTPサーバーにアップロードします。

ダウンロード：一度FTPサーバーにアップロードしたファイルを素材フォルダにダウンロードします。

アップロード、ダウンロード操作のいずれもFTPサーバーの一覧から選択したサーバーにのみ動作を行います。
- ・ **終了**
DCMコンソールを終了します。

[編集]メニュー

- ・ **削除**
選択している素材の登録を削除します。登録の削除の際に素材フォルダにあるファイルを削除するか選択します。素材の登録を削除した後にFTPサーバーへのアップロード操作を行うと、FTPサーバー上からも素材のファイルが削除されます。
- ・ **アップロード状態のリセット**
選択している素材のFTPサーバーへのアップロード状態をリセットします。アップロード状態をリセットした後にFTPサーバーへのアップロード操作を行うと、素材フォルダにあるファイルを再度FTPサーバーへ送りなおすことができます。

[表示]メニュー

- ・ **素材タイプ**
メインエリアで表示する素材タイプを選択します。素材タイプには下記のものがあります。

プレイリストのコンポーネントとして使用する素材タイプ：
ビデオ、静止画、テロップ、FLASH、HTML、オーディオ、URI

コマンドチャンネルに登録するコマンドとして使用する素材タイプ：
制御コマンド、音量
- ・ **サムネイル**
メインエリアの素材一覧をサムネイル方式で表示します。
- ・ **詳細**
メインエリアの素材一覧を詳細方式で表示します。
- ・ **ツールバー**
ツールバーの表示 / 非表示を選択します。
- ・ **ステータスバー**
ステータスバーの表示 / 非表示を選択します。

[移動]メニュー

利用する機能を切り替えます(詳細は p. 31 『1. 1. ナビゲーションバー』を参照)。

[アクション]メニュー

- ・ **プレビュー**
選択している素材のプレビューを行います。素材のプレビューでは素材のプロパティに設定した値が反映されます。

[オプション]メニュー

- ・ **FTP サーバー**
[FTPサーバー一覧]ダイアログボックスが起動します。FTPサーバーの新規作成、編集、削除を行います。またFTPサーバーが複数登録されていた場合、素材の新規登録に使用するFTPサーバーを選択できます。FTPサーバーの選択を変更すると、それ以降に新規登録するファイルは、そのFTPサーバーにアップロードされる素材として登録されます。

▶ Chapter 3

- ・ 環境設定

[環境設定]ダイアログボックスが起動します。

DCM コンソール： 素材フォルダを設定します。

データベース： データベースサーバーの名前と、インスタンス名を設定します。

- ・ 初期設定

[初期設定]ダイアログボックスが起動します。

素材タブ： 素材の新規登録時にデフォルトで設定されるプロパティの値を設定します。

プレイリストタブ： プレイリストの新規作成時にデフォルトで設定される値を設定します。

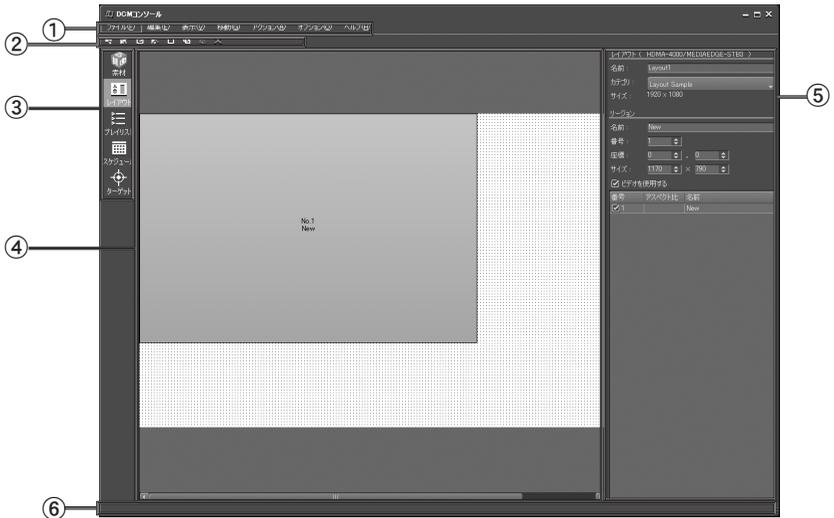
[ヘルプ]メニュー

- ・ バージョン情報

DCM コンソールの [バージョン情報]ダイアログボックスが起動します。

1-3 レイアウト画面

レイアウト画面では、レイアウトの作成、編集、削除などを行います。



- ① **メニューバー**
レイアウト作成についてのメニューを表示します。
- ② **ツールバー**
レイアウト画面で主に使用する機能のショートカットアイコンを表示します。
- ③ **ナビゲーションバー**
画面を移動するためのショートカットアイコンを表示します。
- ④ **メインエリア**
編集中のレイアウト / リージョン (領域) を表示します。
- ⑤ **プロパティエリア**
レイアウトの設定情報、選択中のリージョン (領域) の設定情報、リージョン (領域) の一覧を表示します。
- ⑥ **ステータスバー**
操作に関する説明などを表示します。

1-3-1 メニューバー

レイアウト画面のメニューバーでは以下の各種操作が行えます。

[ファイル]メニュー

- ・ **新規作成**
リージョン： 開いているレイアウトの上にリージョンを追加作成します。

レイアウト： [レイアウトの新規作成]ダイアログボックスが起動します。レイアウトの新規作成を行います。
- ・ **開く**
[レイアウト一覧]ダイアログボックスが起動します。作成したレイアウトを開きます。
- ・ **閉じる**
開いているレイアウトを閉じます。
- ・ **カテゴリ**
[カテゴリ一覧]ダイアログボックスが起動します。カテゴリの新規作成、編集、削除を行います。
- ・ **終了**
DCM コンソールを終了します。

[編集]メニュー

- ・ **元に戻す**
開いているレイアウトに対する直前の操作を元に戻します。
- ・ **コピー**
選択しているリージョンをクリップボードにコピーします。
- ・ **貼り付け**
クリップボードにコピーしたリージョンをレイアウトに貼り付けます。
- ・ **削除**
リージョン： 選択しているリージョンを削除します。

レイアウト： 開いているレイアウトを削除します。

- ・ アスペクト比
選択しているリージョンのアスペクト比を一定の比率に固定します。
- ・ 順序
レイアウト内のリージョンの重なり順序を変更します。

[表示]メニュー

- ・ グリッド
レイアウト上のグリッドの表示 / 非表示を選択します。
- ・ グリッドの設定
[グリッドの設定]ダイアログボックスが起動します。グリッドの幅と高さの間隔を設定します。
- ・ ツールバー
ツールバーの表示 / 非表示を選択します。
- ・ ステータスバー
ステータスバーの表示 / 非表示を選択します。

[移動]メニュー

利用する機能を切り替えます (p. 31 『1. 1. ナビゲーションバー』参照)。

[アクション]メニュー

- ・ レイアウトのコピー
[レイアウトのコピー]ダイアログボックスが起動します。コピー先のレイアウト名を指定して現在開いているレイアウトのコピーを作成します。

[オプション]メニュー

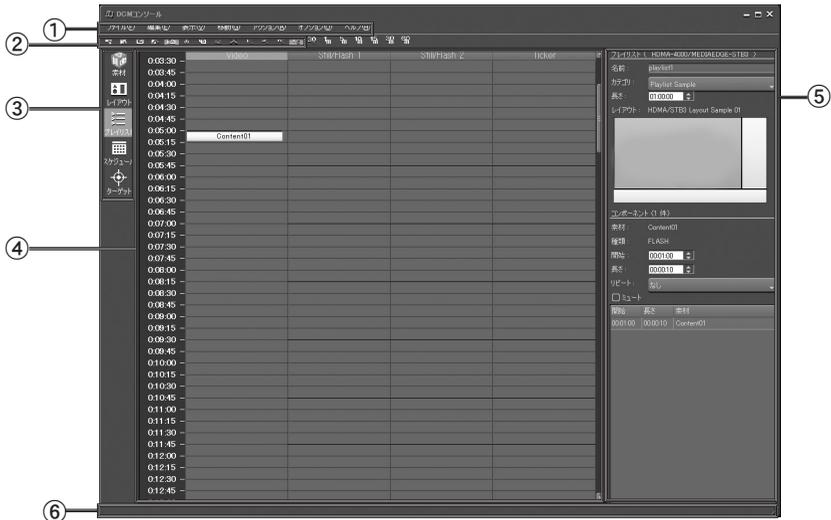
DCM コンソールの各種設定を行います。(P. 33 『1. 2. 1. メニューバー[オプション]メニュー』参照)。

[ヘルプ]メニュー

- ・ バージョン情報
DCM コンソールの[バージョン情報]ダイアログボックスが起動します。

1-4 プレイリスト画面

プレイリスト画面では、プレイリストの作成、編集、削除などを行います。



- ① メニューバー
プレイリスト作成についてのメニューを表示します。
- ② ツールバー
プレイリスト画面で主に使用する機能のショートカットアイコンを表示します。
- ③ ナビゲーションバー
画面を移動するためのショートカットアイコンを表示します。
- ④ メインエリア
編集中のプレイリストを表示します。
- ⑤ プロパティエリア
プレイリストの設定情報、選択中のコンポーネント（プレイリストに登録してある素材）の設定情報、コンポーネントの一覧を表示します。
- ⑥ ステータスバー
操作に関する説明などを表示します。

1-4-1 メニューバー

プレイリスト画面のメニューバーでは以下の各種操作が行えます。

[ファイル]メニュー

- ・ **新規作成**
[プレイリストの新規作成]ダイアログボックスが起動します。プレイリストの新規作成を行います。
- ・ **開く**
[プレイリスト一覧]ダイアログボックスが起動します。作成したプレイリストを開きます。
- ・ **閉じる**
開いているプレイリストを閉じます。
- ・ **カテゴリ**
[カテゴリー一覧]ダイアログボックスが起動します。カテゴリの新規作成、編集、削除を行います。
- ・ **終了**
DCM コンソールを終了します。

[編集]メニュー

- ・ **元に戻す**
開いているプレイリストに対する直前の操作を元に戻します。
- ・ **切り取り**
選択しているコンポーネントをクリップボードに切り取ります。
- ・ **コピー**
選択しているコンポーネントをクリップボードにコピーします。
- ・ **貼り付け**
クリップボードにコピーしたコンポーネントをプレイリストに貼り付けます。
- ・ **削除**
コンポーネント： 選択しているコンポーネントを削除します。
プレイリスト： 開いているプレイリストを削除します。

▶ Chapter 3

[表示]メニュー

- ・ リージョン幅
リージョン幅の固定 / 可変を選択します。
- ・ タイムスケール
プレイリストのタイムラインスケールの表示単位を選択します。
- ・ ビンウィンドウ
ビンウィンドウの表示 / 非表示を選択します。
- ・ ビンウィンドウをトップへ移動
ビンウィンドウを画面のトップに表示します。
- ・ ビンウィンドウを常にトップに表示
ビンウィンドウを常にトップに表示する / しないを選択します。
- ・ ツールバー
ツールバーの表示 / 非表示を選択します。
- ・ ステータスバー
ステータスバーの表示 / 非表示を選択します。

[移動]メニュー

利用する機能を切り替えます (p. 31 『1. 1. ナビゲーションバー』 参照)。

[アクション]メニュー

- ・ プレビュー
[プレイリストのプレビュー]ダイアログボックスが起動します。再生開始時刻を指定してプレビューを開始します。
- ・ プレイリストのコピー
[プレイリストのコピー]ダイアログボックスが起動します。コピー先のプレイリスト名を指定して現在開いているプレイリストのコピーを作成します。

[オプション]メニュー

DCM コンソールの各種設定を行います。(P. 33 『1. 2. 1. メニューバー [オプション]メニュー』 参照)。

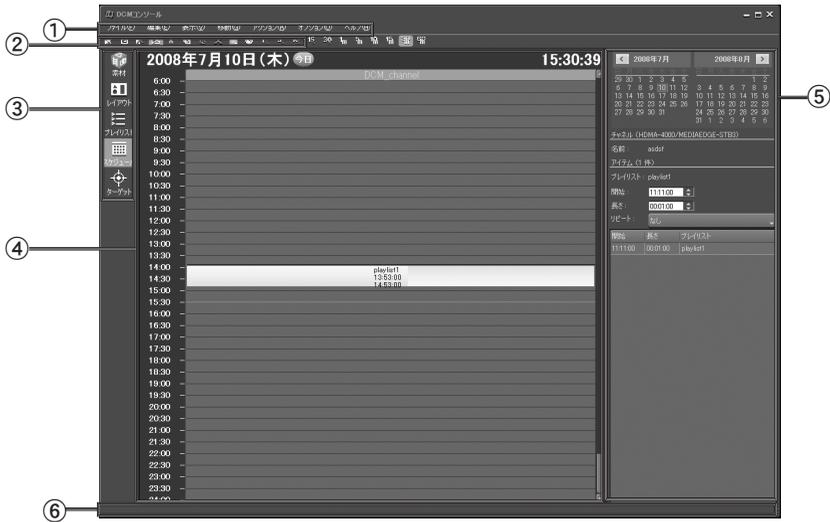
[ヘルプ]メニュー

- ・ バージョン情報

DCM コンソールの [バージョン情報] ダイアログボックスが起動します。

1-5 スケジュール画面

スケジュール画面では、チャンネル/コマンドチャンネルおよびスケジュール(プレイリスト/コマンド)の作成、編集、削除などを行います。



- ① **メニューバー**
チャンネル/コマンドチャンネルおよびスケジュール(プレイリスト/コマンド)作成についてのメニューを表示します。
- ② **ツールバー**
スケジュール画面で主に使用する機能のショートカットアイコンを表示します。
- ③ **ナビゲーションバー**
画面を移動するためのショートカットアイコンを表示します。
- ④ **メインエリア**
編集中のチャンネル/コマンドチャンネルを表示します。
- ⑤ **プロパティエリア**
カレンダー、チャンネル/コマンドチャンネルの情報、選択中のスケジュール(プレイリスト/コマンド)の設定情報、スケジュールの一覧を表示します。
- ⑥ **ステータスバー**
操作に関する説明などを表示します。

1-5-1 メニューバー

スケジュール画面のメニューバーでは以下の各種操作が行えます。

[ファイル]メニュー

- ・ **新規作成**
[チャンネル/コマンドチャンネルの新規作成]ダイアログボックスが起動します。チャンネル/コマンドチャンネルの新規作成を行います。
- ・ **開く**
[チャンネル/コマンドチャンネル一覧]ダイアログボックスが起動します。作成したチャンネルを開きます。
- ・ **アップデート**
[アップデート]ダイアログボックスが起動します。アップデートを行うチャンネル/コマンドチャンネルを選択してアップデートを行います。選択したチャンネル/コマンドチャンネルを使用するすべてのサーバー、グループに対してスケジュールがアップデートされます。
- ・ **スケジュール出力**
[スケジュール出力]ダイアログボックスが起動します。期間と出力先を指定して Schedule.txt を出力します。
- ・ **終了**
DCM コンソールを終了します。

[編集]メニュー

- ・ **元に戻す**
スケジュール(プレイリスト/コマンド)に対する直前の操作を元に戻します。
- ・ **切り取り**
選択しているスケジュール(プレイリスト/コマンド)をクリップボードに切り取ります。
- ・ **コピー**
選択しているスケジュール(プレイリスト/コマンド)をクリップボードにコピーします。
- ・ **貼り付け**
クリップボードにコピーしたスケジュール(プレイリスト/コマンド)をチャンネル/コマンドチャンネルに貼り付けます。

▶ Chapter 3

- ・ 削除
スケジュール： 選択しているスケジュール(プレイリスト/コマンド)を削除します。
チャンネル： 選択しているチャンネル/コマンドチャンネルを削除します。

[表示]メニュー

- ・ チャンネル幅
チャンネル/コマンドチャンネル幅の固定/可変を選択します。
- ・ チャンネルタイプ
表示するチャンネルタイプを選択します。
チャンネル： プレイリストのスケジュールタイムラインを表示します。
コマンドチャンネル： コマンドのスケジュールタイムラインを表示します。
- ・ タイムスケール
チャンネル/コマンドチャンネルのタイムラインスケールの表示単位を選択します。
- ・ チャンネル情報
[チャンネル/コマンドチャンネル情報]ダイアログボックスが起動します。
チャンネル/コマンドチャンネルを持つグループの一覧を表示します。
- ・ ビンウィンドウ
ビンウィンドウの表示/非表示を選択します。
- ・ ビンウィンドウをトップへ移動
ビンウィンドウを画面のトップに表示します。
- ・ ビンウィンドウを常にトップに表示
ビンウィンドウを常にトップに表示する/しないを選択します。
- ・ ツールバー
ツールバーの表示/非表示を選択します。
- ・ ステータスバー
ステータスバーの表示/非表示を選択します。

[移動]メニュー

利用する機能を切り替えます (p. 31 『1. 1. ナビゲーションバー』参照)。

- ・ 今日へ移動
メインエリアに今日のスケジュールを表示します。
- ・ 現在時刻へ移動
メインエリアに現在時刻が表示されるようにタイムラインを移動します。

[アクション]メニュー

- ・ 1日分のスケジュールのコピー
[1日分のスケジュールのコピー]ダイアログボックスが起動します。メインエリアに表示している日のスケジュール(プレイリスト/コマンド)を指定日に一括コピーします。
- ・ 1日分のスケジュールの削除
[1日分のスケジュールの削除]ダイアログボックスが起動します。指定範囲のスケジュール(プレイリスト/コマンド)を一括削除します。

[オプション]メニュー

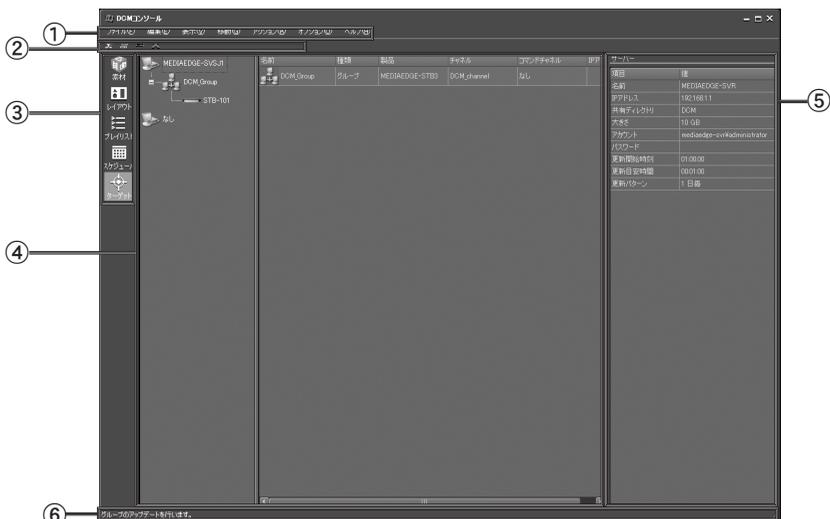
DCM コンソールの各種設定を行います。(P. 33 『1. 2. 1. メニューバー[オプション]メニュー』参照)。

[ヘルプ]メニュー

- ・ バージョン情報
DCM コンソールの[バージョン情報]ダイアログボックスが起動します。

1-6 ターゲット画面

ターゲット画面では、ターゲット(サーバー、グループ、クライアント)の登録、編集、削除やスケジュールの自動更新設定、スケジュールの手動更新などを行います。



- ① **メニューバー**
ターゲット(サーバー、グループ、クライアント)の登録やスケジュールの更新についてのメニューを表示します。
- ② **ツールバー**
ターゲット画面で主に使用する機能のショートカットアイコンを表示します。
- ③ **ナビゲーションバー**
画面を移動するためのショートカットアイコンを表示します。
- ④ **メインエリア**
登録されているターゲット(サーバー、グループ、クライアント)の一覧を表示します。
- ⑤ **プロパティエリア**
選択中のターゲット(サーバー、グループ、クライアント)の設定情報を表示します。
- ⑥ **ステータスバー**
操作に関する説明などを表示します。

1-6-1 メニューバー

ターゲット画面のメニューバーでは以下の各種操作が行えます。

[ファイル]メニュー

- ・ **新規登録**

サーバー： [サーバーの新規登録]ダイアログボックスが起動します。MEDIAEDGE サーバーを登録します。共有ディレクトリとアクセス情報(アカウント、パスワード)やスケジュールの自動更新に関する設定を行います。

グループ： [グループの新規登録]ダイアログボックスが起動します。クライアントのグループを登録します。グループに対して配信するチャンネルとコマンドチャンネルを設定します。MEDIAEDGE サーバーに属するグループではビデオ素材タイプの配信方式を設定します。MEDIAEDGEサーバーに属さないグループではスケジュールの自動更新に関する設定を行います。

クライアント： [クライアントの新規登録]ダイアログボックスが起動します。IPアドレスを設定しクライアントを登録します。

- ・ **アップデート**

[アップデート]ダイアログボックスが起動します。アップデートを行うサーバー/グループを選択してアップデートを行います。選択したすべてのサーバー、グループに対してスケジュールがアップデートされます。

- ・ **終了**

DCM コンソールを終了します。

[編集]メニュー

- ・ **削除**

選択しているターゲット(サーバー/グループ/クライアント)を削除します。サーバーやグループを削除すると、そのサーバーやグループに属するすべてのターゲットが削除されます。

▶ Chapter 3

[表示]メニュー

- ・ ツールバー
ツールバーの表示 / 非表示を選択します。
- ・ ステータスバー
ステータスバーの表示 / 非表示を選択します。

[移動]メニュー

利用する機能を切り替えます (p. 31 『1. 1. ナビゲーションバー』参照)。

[オプション]メニュー

DCM コンソールの各種設定を行います。(P. 33 『1. 2. 1. メニューバー [オプション]メニュー』参照)。

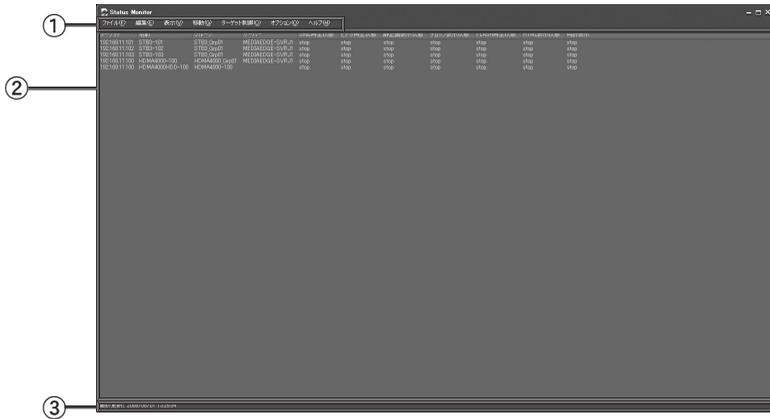
[ヘルプ]メニュー

- ・ バージョン情報
DCM コンソールの [バージョン情報] ダイアログボックスが起動します。

2 ステータスマニタ

2-1 メイン画面

ステータスマニタでは各端末の状態などを確認することができます。



- ① メニューバー
ステータスマニタのメニューを表示します。
- ② メインエリア
監視ターゲット (MEDIAEDGEサーバー/クライアント) の一覧やログなどを表示します。
- ③ ステータスバー
操作に関する説明などを表示します。

[移動]メニュー

利用する機能を切り替えます。

- ・ **再生状態**
再生状態画面に移動します。クライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS/MEDIAEDGE-SWT3 DS) の再生に関するステータスを一覧表示します。
- ・ **転送状態**
転送状態画面に移動します。スケジュールの転送されるターゲット (MEDIAEDGE サーバー、MEDIAEDGE サーバーに属さずにローカルにスケジュールファイルをダウンロードするクライアント) の転送ステータスを一覧表示します。
- ・ **状態表示 1、2、3**
状態表示画面に移動します。クライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS/MEDIAEDGE-SWT3 DS) のすべてのステータスを一覧表示します。
- ・ **設定表示**
設定表示画面に移動します。クライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) の設定を一覧表示します。設定情報のエクスポート/インポートが行えます。
- ・ **動作ログ**
動作ログ画面に移動します。MEDIAEDGE サーバーの DCM サービスのログまたはクライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) の動作ログを表示します。
- ・ **再生ログ**
再生ログ画面に移動します。クライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) の再生ログを表示します。

[ターゲット制御]メニュー

- ・ **ウェブコンソール表示**
クライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) のウェブコンソール画面を表示します。
- ・ **ファームウェア更新**
クライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) の [ファームウェア更新] ダイアログボックスが起動します。指定したクライアントのファームウェアを更新します。

▶ Chapter 3

- ・ **再起動**
クライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) の [再起動] ダイアログボックスが起動します。指定したクライアントの再起動を行います。
- ・ **電源 OFF (SNMP)**
クライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) の [電源OFF] ダイアログボックスが起動します。クライアントの電源を SNMP 経由で OFF にします。事前にクライアントの SNMP 設定を行っておく必要があります。
- ・ **設定エクスポート**
[設定エクスポート] ダイアログボックスが起動します。指定したクライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) の設定情報をテキスト形式でファイルに保存します。
- ・ **設定インポート**
[設定インポート] ダイアログボックスが起動します。指定したクライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) に設定ファイルの情報を設定します。

[オプション]メニュー

- ・ **環境設定**
[環境設定] ダイアログボックスが起動します。

次のターゲットを使用する： チェックを入れると、任意のターゲットの状態を表示します。チェックを外すと DCM コンソールに登録してあるターゲットの状態を表示します。

ウェブコンソール： クライアント (HDMA-4000/HDMA-4000Sync/MEDIAEDGE-STB3 DS) のウェブコンソールでの情報設定などに使用するユーザー名、パスワードを設定します。

SNMP： SNMP のコミュニティ名を設定します。
- ・ **サーバーログ記録設定**
[サーバーログ記録設定] ダイアログボックスが起動します。

サーバー： ログ記録の設定を行うサーバーを選択します。

Display Content Manager ◀

| | |
|----------------|---|
| Syslogを受信する： | Syslogを受信しファイルに保存します。 |
| クライアントログを保存する： | 選択した MEDIAEDGE サーバーが配信しているクライアント(DBサーバーの場合にはローカル再生で動作するクライアント)のログをファイルに保存します。 |
| ログ取得間隔： | サーバーからクライアントにログを取得していく間隔を設定します。 |
| ログ取得行数： | 1回のログ取得動作で取得するログの行数を設定します。0行を指定するとクライアントのすべてのログを取得します。 |
| ログ保存日数： | ログを保存する日数を設定します。0日を指定するとログを削除しません。 |

- ・ **カラム設定**

[カラム設定]ダイアログボックスが起動します。再生状態、転送状態、状態表示、設定表示の各画面で一覧表示する項目の表示/非表示を設定します。

[ヘルプ]メニュー

- ・ **バージョン情報**

ステータスマニタの[バージョン情報]ダイアログボックスが起動します。

Chapter 4

チュートリアル

この章では、Display Content Manager(DCM コンソール、ステータスマニタ)の操作について説明します。

- 操作の流れ
- DCM コンソールの操作
- ステータスマニタの操作

1 操作の流れ

Display Content Manager では素材の登録からスケジュール作成、ターゲットへのスケジュール更新設定までを『DCM コンソール』で一括して行います。ターゲットへのスケジュールの更新状況やクライアント端末の再生状態などは『ステータスマニタ』で確認することができます。Display Content Manager の大まかな操作の流れを以下の表に示します。

| 手順 | 画面 | 設定内容 |
|--------------------------------|----------------------|---|
| ①素材の登録 → p. 58 | DCM コンソール / 素材画面 | プレイリスト内でコンポーネントとして使用する各種素材を登録します。登録後、FTP サーバーにアップロードします。FTP サーバーにアップロードすることで素材を更新する準備が整います。 |
| ②レイアウトの作成 → p. 63 | DCM コンソール / レイアウト画面 | 画面のレイアウトを作成します。1つのモニタ画面をいくつかのリージョン(領域)で区切ることで複数の素材を配置できるようになります。 |
| ③プレイリストの作成 → p. 66 | DCM コンソール / プレイリスト画面 | レイアウトからプレイリスト(番組)を作成します。素材をプレイリストのコンポーネントとして配置していきます。 |
| ④チャンネル、スケジュールの作成 → p. 68 | DCM コンソール / スケジュール画面 | チャンネル(番組表)を作成し、プレイリストをスケジュールしていきます。 |
| ⑤ターゲットの登録、スケジュールの更新 → p. 70 | DCM コンソール / ターゲット画面 | MEDIAEDGE サーバーとクライアントを登録します。クライアントはグループに所属し、グループごとに再生するチャンネルを選択します。最後にスケジュールの更新を開始します。 |
| ⑥転送状態の確認 → p. 77 | ステータスマニタ / 転送状態画面 | MEDIAEDGE サーバーやクライアントに対するスケジュール更新の進行状況や結果などを確認します。 |
| ⑦クライアントの確認 → p. 78 | ステータスマニタ / 再生状態画面 | クライアントの再生状態を確認します。 |

2 DCM コンソールの操作

2-1 DCM コンソールの起動

DCM コンソールを起動します。

- 1 デスクトップ上の [DCM コンソール] アイコンをダブルクリック、もしくは [スタート] メニューから [すべてのプログラム] → [canopus] → [DisplayContentManager] → [DCM コンソール] をクリックします。

→ DCM コンソールが起動します。



2-2 素材画面の操作

素材の登録とFTPサーバーへのアップロードを行います。ここでは例としてビデオ素材とテロップ素材を登録します。

2-2-1 ビデオ素材の登録

1 ナビゲーションバーから[素材]ボタンをクリックします。

→ 素材画面へ移動します。



2 メニューバーから[表示]→[素材タイプ]→[ビデオ]を選択します。

→ ビデオ素材の一覧が表示されます。



ポイント

カテゴリを選択すると表示内容を絞り込むことができます。素材をカテゴリに割り振るには、先にカテゴリを作成し、そのカテゴリで絞り込み表示を行った状態で素材の新規登録を行うか、登録後の素材を選択し、プロパティエリアからカテゴリを選択します。

3 メニューバーから[ファイル]→[新規登録]を選択します。

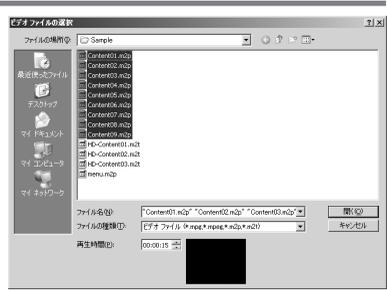
→ [ビデオファイルの選択] ダイアログボックスが起動します。



4

登録する素材を選択し、[開く] ボタンをクリックします。

※ 素材は複数同時に登録することができます。



2-2-2 テロップ素材の登録

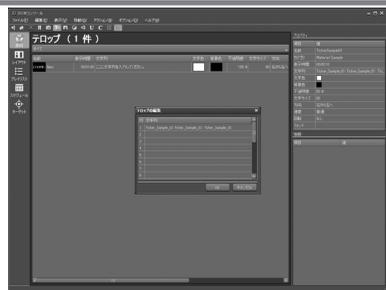
- 1 メニューバーから[表示]→[素材タイプ]→[テロップ]を選択します。
→ テロップ素材の一覧が表示されます。



- 2 メニューバーから[ファイル]→[新規登録]を選択します。



- 3 作成されたテロップを一覧から選択し、プロパティエリアの[文字列]をダブルクリックします。



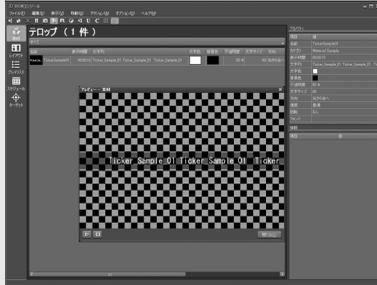
- 4 [文字列]以外のパラメータもプロパティエリアより設定します。

- ※ メニューバーから[アクション]→[プレビュー]を選択すると、設定したパラメータの動作を確認することができます。



📖 ポイント

作成したテロップをクリックすると、ウィンドウ右側のプロパティエリアに設定内容が表示されます。必要に応じて文字色、背景色、表示スピードなどの各種設定を行ってください。また、設定状況をプレビュー確認する事もできます。



📖 Tips : 『ファイル自身に長さのある素材タイプ、長さの無い素材タイプ』

ビデオとオーディオの素材タイプはファイル自身の「長さ」を持ちます。素材として登録すると「長さ」よりも短い範囲で「表示時間」を設定できます。それ以外の素材タイプは長さの無い素材タイプとして認識されます。静止画など長さの無い素材には自由な「表示時間」を設定できます。FLASH素材タイプは長さのあるファイルであってもDCM コンソールでは長さの無い素材として扱われます。コマンド（制御コマンド、音量）の素材タイプは「表示時間」も設定できません。

📖 Tips : 『素材登録時のファイルのコピー動作について』

素材登録を行ったファイルはすべて素材フォルダ内で管理されます。素材フォルダ以外にあるファイルを素材として新規登録を行うと素材フォルダ以下の規定のフォルダにコピーされます。素材フォルダ内にあるファイルを素材として新規登録を行うとそのファイルがそのまま素材として登録され、ファイルのコピーは行われません。

📖 Tips : 『HTML 素材タイプについて』

Web ページは通常、ベースとなるHTML ファイルとHTML ファイルから参照される複数の画像ファイルなどから構成されます。HTML 素材タイプはベースとなるHTML ファイルを素材として登録し、その後HTML ファイルから参照されるすべてのファイルを子素材として登録する必要があります。また参照されるファイルのURI は相対パスで記述する必要があります。HTML 素材タイプの新規登録は、ファイル間の相対位置を維持するために、素材フォルダ内から登録を行ってください。

2-2-3 登録素材のFTPアップロード

1 メニューバーから[ファイル] → [FTP] → [アップロード]を選択します。

→ [FTP サーバーの選択] ダイアログボックスが起動します。



2 素材をアップロードするFTPサーバーにチェックを付け、[OK]をクリックします。

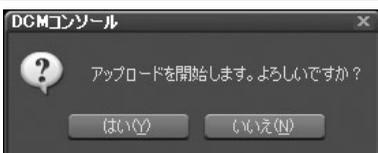


注意

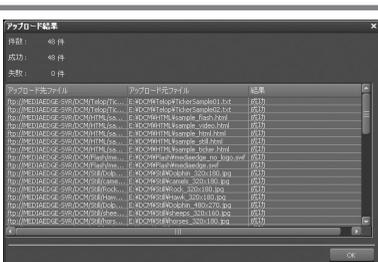
基本的にはすべてのFTPサーバーを選択してください。FTPサーバーからチェックを外すと素材のアップロード漏れが発生する恐れがあります。

3 [はい]をクリックします。

→ 素材のアップロードを開始します。



4 アップロードが完了すると[アップロード結果]ダイアログボックスが起動します。[OK]をクリックし、アップロードを終了します。



2-3 レイアウト画面の操作

レイアウトを作成し、リージョン（領域）を設定します。

2-3-1 レイアウトの作成

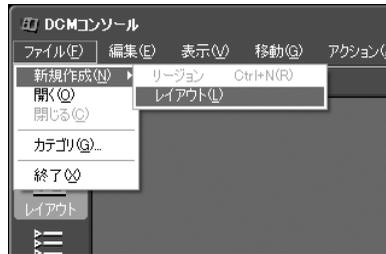
- 1** ナビゲーションバーから[レイアウト]ボタンをクリックします。

→ レイアウト画面へ移動します。



- 2** メニューバーから[ファイル]→[新規作成]→[レイアウト]を選択します。

→ [レイアウトの新規作成]ダイアログボックスが起動します。



- 3** 作成するレイアウトの設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。

→ レイアウトが作成され、メインエリアに表示されます。

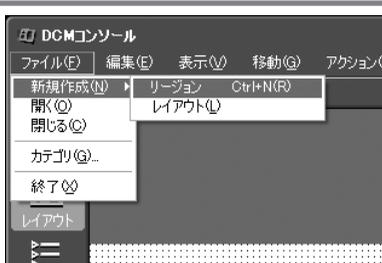
- ・ [名前]
作成するレイアウトの名前を入力します。
- ・ [カテゴリ]
所属するカテゴリを選択します。
- ・ [製品]
対象となる製品を選択します。
- ・ [プリセット]/[サイズ]
レイアウトのサイズを選択/設定します。



2-3-2 リージョンの作成

1 メニューバーから[ファイル]→[新規作成]→[リージョン]を選択します。

→ レイアウト内にリージョン(領域)が作成されます。

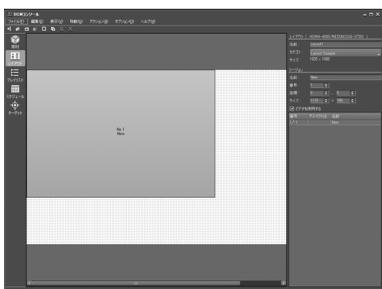


ポイント

レイアウト上のリージョンが無い場所でマウスをドラッグ&ドロップすることでもリージョン(領域)を作成することもできます。

2

レイアウト上でのリージョン(領域)のサイズや位置を編集します。



ポイント

画面上に作成されたリージョン(領域)はドラッグ&ドロップで大きさや位置を自由に設定することができます。また画面右側のプロパティエリアに数値入力することで詳細な設定を行うことが可能です。

ポイント

リージョン(領域)に名称を設定する場合は、設定したいリージョン(領域)を選択し、プロパティエリアの[名前]の項で任意の名称を設定します。

注意

リージョン(領域)のサイズ設定についてはあらかじめ表示したいコンテンツのサイズや縦横比を確認しておいてください。

📖 Tips : 『レイアウトの保存について』

レイアウトへの変更内容は随時上書き保存されています。ユーザーが保存に関する操作を行う必要はありません。

📖 Tips : 『ビデオリージョンについて』

プロパティエリアの「ビデオを使用する」にチェックのあるリージョンはビデオ素材タイプを含めてすべての素材タイプを配置することが可能なリージョンです。チェックの無いリージョンにはビデオ素材タイプ以外の素材を配置することが可能です。HDMA-4000/MEDIAEDGE-STB3 DS 用のレイアウトには1つだけビデオリージョンが作成できます。MEDIAEDGE-SWT3 DS 用のレイアウトには4つまでビデオリージョンが作成できます。

3

手順1～2を行い、複数のリージョン(領域)を作成します。

2-4 プレイリスト画面の操作

プレイリストを作成し、素材をリージョンごとのタイムラインに配置します。

2-4-1 プレイリストの作成

- 1 ナビゲーションバーから[プレイリスト]ボタンをクリックします。

→ プレイリスト画面へ移動します。



- 2 メニューバーから[ファイル]→[新規作成]を選択します。

→ [プレイリストの新規作成] ダイアログボックスが起動します。



- 3 プレイリストの長さや元になるレイアウトを指定し、[OK]をクリックします。

→ プレイリストが作成され、メインエリアに表示されます。

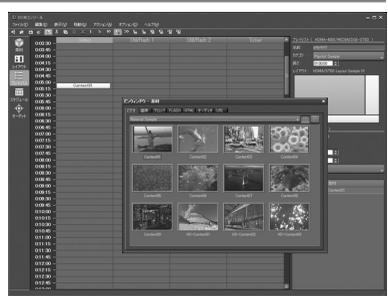


2-4-2 コンポーネントの登録

- 1** メニューバーから[表示]→[ピンウィンドウ]を選択します。
→ [ピンウィンドウ]が起動します。



- 2** [ピンウィンドウ]内の素材をクリックし、配置したいリージョンのタイムライン上でもう一度クリックします。
→ 素材がコンポーネントとして配置されます。



- 3** 手順1～2を繰り返し、複数のリージョンにコンポーネントを登録します。

Tips : 『プレイリストの保存について』

プレイリストへの変更内容は随時上書き保存されています。ユーザーが保存に関する操作を行う必要はありません。

2-5 スケジュール画面の操作

チャンネルを作成し、スケジュールを登録します。

2-5-1 チャンネルの作成

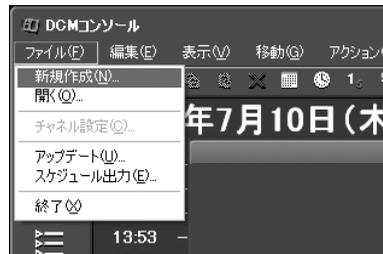
- 1** ナビゲーションバーから[スケジュール]ボタンをクリックします。

→ スケジュール画面へ移動します。



- 2** メニューバーの[ファイル]→[新規作成]を選択します。

→ [チャンネルの新規作成] ダイアログボックスが起動します。



- 3** チャンネル名および使用する製品をプルダウンメニューから選択し、[OK]をクリックします。

→ チャンネルが作成されます。



2-5-2 スケジュールの作成

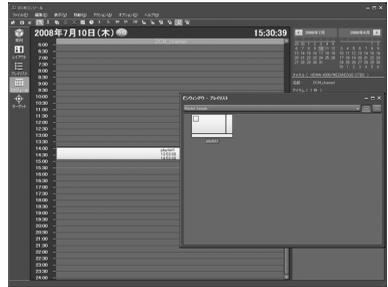
- 1** メニューバーから[表示]→[ピンウィンドウ]を選択します。

→ [ピンウィンドウ]が起動します。



- 2** [ピンウィンドウ]内のプレイリストをクリックし、配置したいチャンネルのタイムライン上でもう一度クリックします。

→ プレイリストがスケジュールとして配置されます。



ポイント

[スケジュール]画面のタイムラインは[プレイリスト]画面のタイムラインと異なり、実際に放送したい日時に対してスケジュールを設定するタイムラインです。

- 3** 手順2を繰り返し、チャンネルにスケジュールを登録します。

Tips : 『スケジュールの保存について』

チャンネルへ登録したスケジュールは随時上書き保存されています。ユーザーが保存に関する操作を行う必要はありません。

2-6 ターゲット画面の操作

ターゲットの登録と、スケジュールの更新を行います。

2-6-1 サーバーの登録

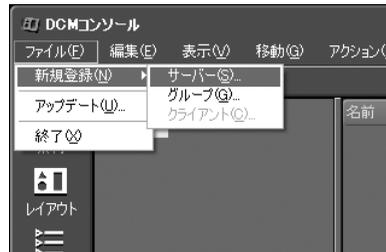
1 ナビゲーションバーから[ターゲット]ボタンをクリックします。

→ ターゲット画面へ移動します。



2 メニューバーから[ファイル]→[新規登録]→[サーバー]を選択します。

→ [サーバーの新規登録] ダイアログボックスが起動します。



3

登録するサーバーの情報を設定し、
[OK]ボタンをクリックします。

→ サーバーが登録されます。

- ・ [名前]
登録するサーバー名を入力します。
- ・ [IP アドレス]
登録するサーバーの IP アドレスを入力します。
- ・ [共有ディレクトリ]
インストール時に設定した共有ディレクトリ名を入力します。
※ 共有ディレクトリのエイリアス名を入力してください。
※ アカウント、パスワードには共有ディレクトリへのアクセス権があるアカウント情報を入力してください。
- ・ [アカウント]
アカウント名を入力します。
※ アカウント名を入力する場合は、[コンピュータ名]¥[アカウント名]、もしくは[ドメイン名]¥[アカウント名]の順で入力するようにしてください。
※ OSの初期設定では、サーバーのパスワードが空白に設定されている場合は接続が行えません。あらかじめパスワードを設定しておいてください。
- ・ [更新開始時刻]
スケジュールの自動更新の開始時刻を設定します。
- ・ [更新目安時刻]
スケジュールの自動更新にかかる時間を設定します。ファイル転送を低速で行いたい場合、大きな値を設定してください。
※ 更新にかかる時間を保証するものではありません。
- ・ [更新パターン]
スケジュールの自動更新を行う間隔を設定します。
※ スケジュールの自動更新では1週間分のスケジュールが更新されます。1週間に最低1回以上の更新を行うように設定してください。

サーバーの新規登録

名前(N): MEDIAEDGE-SVR

IPアドレス(I): 192 . 168 . 1 . 1

共有ディレクトリ(D): DCM

大きさ(S): 10

アカウント(A): mediaedge-svr#administrator

パスワード(P): *****

更新開始時刻(U): 1:00:00

更新目安時刻(L): 0:01:00

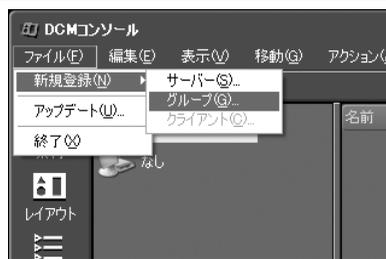
更新パターン: 1日毎

設定(U...)

OK キャンセル

2-6-2 グループの登録

- 1 メニューバーから[ファイル]→[新規登録]→[グループ]を選択します。
→ [グループの新規登録] ダイアログボックスが起動します。



- 2 登録するグループの情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

→ グループが登録されます。

- ・ [名前]
登録するグループ名を入力します。
- ・ [製品名]
使用する製品を選択します。
- ・ [サーバー]
使用するサーバーを選択します。
※ サーバーを指定した場合はサーバーの設定内容
を使用するため、[更新開始時刻]、[更新目安時刻]、および[更新パターン]は設定できません。
- ・ [親グループ]
使用する親グループ名を選択します。
- ・ [チャンネル]
使用するチャンネルを選択します。
- ・ [コマンドチャンネル]
使用するコマンドチャンネルを選択します。
- ・ [配信]
MEDIAEDGE サーバーでのビデオ素材の配信方法を設定します。
※ サーバーで「なし(ローカル)」を選択した場合は設定できません。
- ・ [更新開始時刻]
スケジュールの自動更新の開始時刻を設定します。
- ・ [更新目安時刻]
スケジュールの自動更新にかかる時間を設定します。ファイル転送を低速で行いたい場合、大きな値を設定してください。
※ 更新にかかる時間を保証するものではありません。



- ・ [更新パターン]

スケジュールの自動更新を行う間隔を設定します。

※ スケジュールの自動更新では1週間分のスケジュールが更新されます。1週間に最低1回以上の更新を行うように設定してください。

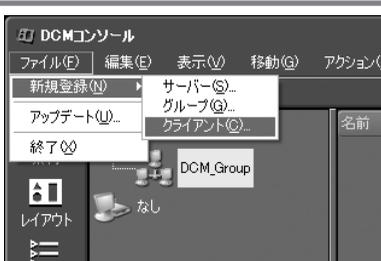
ポイント

グループとは番組の配信先のこと、複数の番組を用意した場合はその番組数だけグループが必要となり、それぞれの各グループ内に番組を表示するクライアントを登録することになります。

2-6-3 クライアントの登録

1 メニューバーから[ファイル]メニュー→[新規登録]→[クライアント]を選択します。

→ [クライアントの新規登録]ダイアログボックスが起動します。



2 登録するクライアントの情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

→ クライアントが登録されます。

- ・ [名前]
登録するクライアント名を入力します。
- ・ [グループ]
使用するグループ名を選択します。
- ・ [IP アドレス]
クライアントの IP アドレスを入力します。

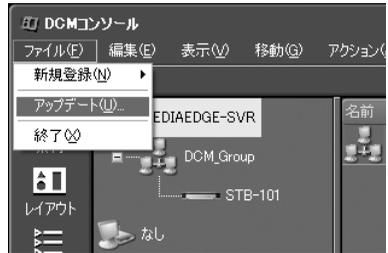


📖 ポイント

クライアントの IP アドレスはイントラネット内のシステムが、もしくはインターネットなどを介したシステムが、などでネットワーク構成がことなります。あらかじめ各クライアントの IP アドレスを確認しておいてください。

2-6-4 スケジュールの手動更新

- 1 メニューバーから[ファイル] → [アップデート]を選択します。
→ [アップデート] ダイアログボックスが起動します。



- 2 スケジュールの更新を行うターゲット(MEDIAEDGE サーバーまたは MEDIAEDGEサーバーに所属していないグループ)にチェックを付けて[OK]ボタンをクリックします。

- 3 スケジュールの更新が開始されます。

- スケジュールの更新が完了すると、完了した時刻の次のスケジュールから再生が開始されます。
- ※ スケジュールの更新状況を確認するには次頁 『3.2. 転送状態の確認』を参照してください。

☞ Tips : 『スケジュールの自動更新』

スケジュールの手動更新を行わない場合でも自動更新設定(更新開始時刻、更新目安時刻、更新パターン)にしたがってスケジュールが自動で更新されます。

☞ Tips : 『チャンネル画面でのスケジュールの手動更新』

チャンネル画面のメニューバーから[ファイル] → [アップデート] を選択してもスケジュールの更新を行うことができます。更新を行うチャンネル/コマンドチャンネルを選択して[OK]ボタンをクリックしてください。選択されたチャンネル/コマンドチャンネルを使用するすべてのサーバー/グループに対してスケジュールの更新が行われます。

3 ステータスマニタの操作

3-1 ステータスマニタの起動

ステータスマニタを起動します。

- 1 [スタート]メニューから[すべてのプログラム] → [canopus] → [DisplayContentManager] → [ステータスマニタ]をクリックします。
→ ステータスマニタが起動します。



📖 ポイント

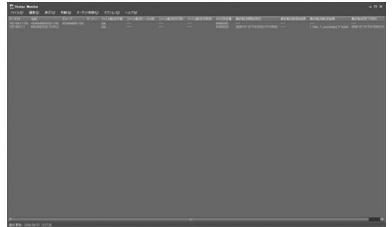
ステータスマニタを起動する前に、DCM コンソールのターゲット画面でサーバー、クライアントの登録を行ってください。

3-2 転送状態の確認

ステータスマニタで転送状態を確認します。

メインメニューから[移動]→[転送状態]を選択し転送状態画面に移動します。

→ 登録したサーバー、クライアントの転送状態が表示されます。



3-3 再生状態の確認

ステータスマニタで再生状態を確認します。

メインメニューから[移動]→[再生状態]を選択し再生状態画面に移動します。

→ 登録したクライアントの再生状態が表示されます。



Tips : 『表示内容の自動更新』

表示内容を自動で更新するには、メインメニューの[表示]→[更新間隔]より更新する間隔を選択してください。

Tips : 『表示項目の選択』

表示する項目および順序の変更は、メインメニューの[オプション]→[カラム設定]より行うことができます。

Chapter 5

仕 様

- ・ 制限事項

1 制限事項

■ 同時に再生できる最大コンテンツ数

● HDMA-4000/STB3 DS

ビデオ：1、静止画：1、テロップ：1、FLASH：1、HTML：1、オーディオ：1

※ ただし、ビデオとオーディオは排他使用。

● SWT3 DS

ビデオ：4、静止画：16、テロップ：2、FLASH：4、HTML：4、オーディオ：4

■ レイアウト

- ・ HDMA-4000/STB3 DSが1920×1080ドットの固定サイズ、SWT3 DSは最小480×480ドットから最大1920×1920ドットまで任意のサイズを設定可能。

※ HDMA-4000/STB3 DSの再生においてはハードウェアの仕様によりビデオ：1920×1080ドット、ビデオ以外(静止画、テロップ、FLASH、HTML)：960×540ドットにて実行(ビデオ以外の再生においては1920×1080ドットに拡大表示される)。

※ HDMA-4000/STB3 DSの再生においてはハードウェアの仕様によりビデオは最背面にて実行。テロップは最前面にて実行。

- ・ 1つのレイアウトに配置可能な最大リージョン(領域)数は20件まで。
- ・ 1つのレイアウトに配置可能なビデオリージョン(領域)数はSTB3 DS/HDMA-4000が1件まで。SWT3 DSは4件まで。

■ プレイリスト

- ・ 1件のプレイリストの長さは最短15秒から最長23時間59分59秒まで。
- ・ 1件のプレイリストに登録できるコンポーネントの最大件数は1000件まで。

■ スケジュール

- ・ 1件のスケジュールの長さは最短15秒から最長23時間59分59秒まで。
- ・ 1日のスケジュールの最大登録件数は1000件まで。
- ・ 1日のコマンドスケジュールの最大登録件数は100件まで。

■ 素材再生の制限事項

プレイリスト上の素材(ビデオ、静止画、テロップ、FLASH、HTML、オーディオ)の再生時刻は重ねて登録可能。ただし同時に再生可能な素材は「同時に再生できる最大コンテンツ数の制限」に記述された仕様に準拠。また、後から実行された素材の再生が優先される。